

## 06

## 西川運輸興業株式会社

## 企業概要

所在地:新潟市東区木工新町431番地2 電話:025-271-7111

事業内容:道路貨物運送業、倉庫業

従業員数:131名うち雇用障害者数6名

<http://www.nishikawaunyukogyo.co.jp/>

業務内容によっては、  
健常者以上に活躍してくれます

## DATA BOX

現在の障害者雇用の状況  
知的障害者6名主な担当業務  
段ボール、梱包箱等の組み立て、清掃等

## 雇用の経緯

平成27年に市内の県立新潟ろう学校から生徒の職場体験受入れのお話をいただき、2週間程度の実習を行ったことがきっかけです。

障害者の受入れは初めてでしたが、実習を終えてみて、予想していた以上に十分に業務を行ってもらえると感じましたので、トライアル雇用は行わずに、卒業後の平成28年4月からすぐに2名を正式採用しました。

その後も、定期的に職場体験を受け入れながら、毎年1~2名程度の障害者を採用し、現在は倉庫業務で5名、社内の清掃業務で1名の障害者が働いています。

## point

## 1

## まずは個人の性格や特性を理解すること

当社では、基本的に新卒での採用を行っておりますので、採用にあたっては、職場実習での様子を見ることに加え、県立新潟ろう学校の先生やご家族とのコミュニケーションを大切にしています。職場実習だけでは見えない本人の性格や特性をお聞きすることで、業務を行う上で配慮すべき事項を事前に把握するようにしています。

また、採用後は必ずジョブコーチ(P.33参照)から3か月程度の支援に入ってもらい、作業面、精神面でのアドバイスをいただいているほか、障害者就業・生活支援センター(P.35参照)からも定期的に面談に入ってもらい、障害者のフォローに当たっていただいています。

ジョブコーチからのアドバイスもあり、最初の頃は、指示が理解しやすいように、口頭ではなく、ノートに必要なことを書きながらコミュニケーションを図っていましたが、仕事が慣れてくると、徐々にノートも必要がなくなり、最近では信頼して仕事を任せることができています。

## 採用までのプロセス(一例)

- ① 県立新潟ろう学校からの紹介
- ② 職場実習
- ③ 正式採用



倉庫内の梱包資材

## 作業の仕上がりは健常者以上

障害者に従事してもらう業務の選定にあたっては、できるだけ工程が少なく、ルーティンな業務であって、理解しやすいものを選びました。

現在やってもらっている中心業務は、段ボールや商品の梱包箱の組立て作業です。これらの業務は、従来はパート従業員にお願いしていたほか、納期まで時間のない場合は、手の空いている社員で協力して行っていましたが、単調な作業で、作る個数も非常に多いことから、どうしても仕上がりが雑になってしまうケースがありました。

ところが、障害者に従事してもらったところ、どんなに個数が多くても、折り目がずれたりしないし、ガムテープを張る際も曲がったりせず、常に100%の美しい仕上がりとなり、お客様からも大変喜ばれています。

単調なルーティン作業であっても、集中力を切らさずに続けられることは、大きな特性だと思います。



商品の梱包箱を組み立てる作業

### 職場にいたることが当たり前

経理課長 勝海さん

当社が初めて障害者を受け入れてから早5年が経過致しました。社内のどこで会っても必ずあいさつをする礼儀正しさは我々が見習うべき彼らの長所です。

昼休みには休憩室で一般の従業員と一緒にテレビを見たり、時には彼らがクイズを出すなど、和気あいあいとした雰囲気にも一役買っており、彼らがいることが当たり前になってきていると思います。



### こんな課題どうしていますか？

任せる仕事がない。あっても新たに雇用するまでの量にならない。

A

上でも説明したとおり、業務内容によっては健常者以上の活躍をしてもらえる場合があります。大切なのは、それぞれの性格や特性を把握した上で、その人に合った業務をってもらうことだと思います。

## 支援機関

### 職場定着に向けて一緒に課題を解決します

障害者就業・生活支援センター らいふあつぷ 就業支援ワーカー 宗村さん  
(P.35参照)

西川運輸興業株式会社様では現在複数の障害者雇用に取り組んでおられ、それぞれの個性に合わせて対応していただいております。当センターでの就労後の重要な役割は「定着し続けるための課題解決」です。「何が課題か?課題を掘り起こす」ことが最も重要と考えます。他には「変化点」の見極め。変化を鋭くキャッチすること、先送りにしない、「早期行動・早期解決」こそが、信頼性の向上と定着の第一歩だと思います。

そこで「職場訪問確認シート」を作成し、タイムリーに活用することで課題解決の糸口を見極めていきます。仕事に対する意欲、仕事のスキル、職場での人間関係等、勤怠状況や生活状況の変化についてシートを活用して把握し、企業の担当者と情報共有をしています。今後も、障害者・企業・支援者が互いに理解共有しあえる仕組みづくりに取り組んで参ります。